

【目次】

1. 友愛会、大日本労働総同盟友愛会に改称から100年、大正8年9月1日！
2. 友愛会は大正デモクラシーの先駆！
3. 渋沢栄一の「老後の三大事業」と協調会！
4. 国際労働組合連盟 IFTU の設立から100年、PDFデータ『IFTU45年』を贈呈！

1. 友愛会、大日本労働総同盟友愛会に改称から100年、大正8年9月1日！

大正元（1912）年8月1日、鈴木文治がユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）で創立した友愛会は、その人格承認の訴えが当時の労働者の支持を得て、次第に組織を拡大していきました。

大正4、5年に鈴木文治は渡米し、米国労働総同盟 AFL の大会運営などを目の当たりにします。また、鈴木は AFL の組合規約、綱領、機関誌、パンフレット、さらにはギャベル（小槌）、ユニオン・レベル（組合員証）、バッジ（記章）などを持ち帰りました。やがて友愛会に AFL 流の組織体制、組合運営が導入され、組織は拡大・強化・充実されていきます。

大正8（1919）年8月30日～9月1日の友愛会第7周年全国大会で友愛会は、その名称を大日本労働総同盟友愛会に改称します。この大会は「友愛会創立以来最も意義ある大会であった。それは従来の会の組織にも、制度にも態度、精神にも、革命的な変化を与えるものがあつた」（『労働運動20年』鈴木文治著）とされています。9月1日はこの名称変更から100年です。



翌大正9年5月2日、大日本労働総同盟は日本初のメーデーを主導。そして10月3～5日の友愛会第8周年大会（写真）で「大」を削除し、日本労働総同盟友愛会と改称。さらに大正10（1921）年10月1～3日の友愛会創立第10年大会で、名称から「友愛会」を削除し、日本労働総同盟（総同盟）となります。戦後にまで続く総同盟の誕生です。

2. 友愛会は大正デモクラシーの先駆！

大正元年8月1日に創立された友愛会は、名称や綱領、その活動などから労働組合というよりは、労働者の共済・修養団体と言われる一面を持っていました（岩波書店『広辞苑』他）。しかし、実際の友愛会はどのような労働団体だったのでしょか。

鈴木文治は友愛会創立について『労働運動20年』（昭和6年刊行）で、「大正元年8月1日0夜7時、東京三田芝園橋のほり、統一基督教弘道会（従来の東京ユニテリアン協会）図書室。服喪第三日、帝都は全市をあげて死のような沈黙の中、同志は一人一二人と、会場に集まってきた（以下略）。」と記述しています。

今日、労働組合は日本でも世界でも最も民主的な組織の一つとされています。そして友愛会は、大正と年号を改めた第一日に創立されています。とするならば大正の幕開けとともに誕生した民主的な労働団体である友愛会は、「大正デモクラシーの先駆」と言っても良いでしょう。因みに「大正デモクラシーの旗手」とされる吉野作造は、友愛会評議員を務めています。

3. 渋沢栄一の「老後の三大事業」と協調会！

友愛労働歴史館は現在、企画展「協調会結成 100 年—渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—」(2019. 7. 4～12. 24) を開催中で、協調会や渋沢栄一らについて解説しています。



渋沢栄一は約 500 社の企業の創設・経営に関わり、「日本資本主義の父」と呼ばれた巨人で、「実業家。青淵と号。初め幕府に仕え、明治維新後、大蔵省に出仕。辞職後、第一国立銀行を経営、製紙・紡績・保険・運輸・鉄道など多くの企業設立に関与、財界の大御所として活躍。引退後は社会事業・教育に尽力。(1840～1931)」(広辞苑) と解説されています。

日本近代資本主義の巨人渋沢栄一は、大正 5 (1919 年) に喜寿 (77 歳) で実業界を引退。そして「老後の三大事業」として、「経済と道徳の一致」「資本と労働の調和」「細民救恤手段の統一」の活動に取り組みます。

注目するのは渋沢がめざした「資本と労働の調和」であり、それを具体化した協調会についてです。協調会は「労資協調を目的とし、労資紛争の防止・調停、社会問題の解決・調査・研究などを事業とした財団法人。1919 年 (大正 8) 東京に創立、第二次大戦後解散」(広辞苑) した団体。協調会は後に産業報国運動を提唱し、戦後、GHQ により解散に追い込まれたことで、とかく負のイメージがあります。しかし、渋沢栄一は労働運動非合法の時代に労働組合の法認を前提とし、労資対等による協調・協力を目指して協調会を設立したのです。渋沢栄一と彼が主導した初期協調会について、当館企画展「協調会結成 100 年」でご確認ください。

4. 国際労働組合連盟 IFTU の設立から 100 年、PDF データ『』IFTU45 年』を贈呈！

今から 100 年前の 1919 年 7 月 28 日に労働組合の国際組織、国際労働組合連盟 IFTU (アムステルダム・インター、14 ヵ国・約 1770 万組合員) が設立されました。IFTU は、「労働組合主義を標榜し、同年再建された第二インターナショナルと同年設立された国際労働機関 ILO と親密の協力関係をもった」(『ブリタニカ国際大百科事典』) とされています。

戦前 (第一次大戦から第二次大戦まで) の世界の労働運動は、①労働組合主義の国際労働組合連盟 IFTU と、②共産主義の赤色労働組合インターナショナル (プロフィンテルン・RILU)、そして③キリスト教を基礎とする国際キリスト教労組連盟 (IFCTU) の三つに分かれていたのです。

国際労働組合連盟 IFTU について記したものに『国際労働運動の 45 年』(W・スケヴネルス著、小山泰蔵訳、論争社) があります。現在、同書は入手困難ですが、当歴史館協力者 (間宮繁子氏) が翻訳したデジタルデータ (PDF) 版『国際労働組合連盟 45 年史』(W・スケヴネルス著、間宮繁子訳) があります。希望者は友愛労働歴史館まで Eメールで申し込んでください。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

唯一館から 125 年、友愛会から 107 年